

10

モビリティスマートシティ豊田

—— 豊田市、愛知県、日本
2010年～

次世代モビリティ社会と環境志向ライフスタイルの実現を目指す
自動車産業都市

Key Issue

豊田市は、国内有数の自動車産業都市であるが、生活・ビジネス活動における自動車交通への依存が高いことから、市民・企業・行政が連携した解決策の確保が課題であった。そこで、長年蓄積された先端技術を生かした次世代モビリティ社会と共に環境志向のライフスタイルが実現できる都市を目指すため、複数の実証プロジェクトを展開することで、世界各国で普及する低炭素社会に向けたビジネス・ライフスタイルの変革を誘導することが求められた。

Project Approach

次世代型交通・社会システムの実証実験の導入

豊田市は、これまでもEV/PHV、ITS*⁵、家庭用蓄電池、超小型ビークル、コネクテッドカー等の社会実装に向けた実証実験を幅広く展開している。都市を実験場とするこれらの成果は、自動車の技術開発にフィードバックされる一方で、エネルギーの地産地消を目指すエネルギーマネジメントシステム(EMS)や車と公共交通を組み合わせた次世代型交通システムの導入等により、社会全体でのエネルギー利用や交通需要の最適化が図られた。プロジェクトの推進にあたっては、道路利用等の規制緩和や市民の協力が不可欠であったことから、豊田市ではモデル都市としての位置づけを確保し、官民連携、市民協働のもと実証研究の推進を図っている。



「とよたエコフルタウン」は低炭素なまち暮らしや最新の環境技術の体験や新たな産業振興の拠点である。2012年の開業以来、世界約108の国・地域から約26万人が来場している。
出典：豊田市

低炭素社会のモデルとなる 技術体感空間の整備

豊田市では、実証実験の展開とあわせて、HEMS*⁶を備えたスマートハウスや先進モビリティ試乗など新たな技術やサービスに触れることができ、持続可能な「豊かな暮らし」が実現できる低炭素社会モデル拠点である「とよたエコフルタウン」を整備した。このモデル地区は、エコな未来の豊かな暮らしを実際に体験できる最先端技術のショーウィンドウであり、技術・サービスの国内外の普及に加え、アセアンに向けた市場展開を加速させる役割を担っている。



民生
地球にやさしい暮らしを実現

- ◆スマートハウスの普及促進
- ◆とよたエコポイントによる市民の環境配慮行動促進
- ◆見える化による市民の環境意識の向上

森林
100年先に向けた森づくり

- ◆間伐の実施によるCO2吸収量の最大化
- ◆地域材の利用促進
- ◆市民啓発活動及び森林環境教育の実施

産業
次世代産業の交流と育成

- ◆環境経営ネットワークの構築による環境経営の普及
- ◆サステナブル・プラント(環境に配慮した持続可能な工場)への移行推進
- ◆環境・エネルギー産業の育成、誘致

交通
モビリティの未来を築く

- ◆人と環境にやさしい公共交通ネットワークの整備
- ◆インフラ整備も含めた次世代自動車の導入促進
- ◆多様な交通手段による移動の低炭素化

都心
エコフルタウンから広がる夢

- ◆豊田市の取り組みを体感できる「とよたエコフルタウン」
- ◆「人」と「線」の都心づくり

実証実験のテーマは、都心部活性化、生活、森林、交通、産業に及び、社会・市民生活に大きく関わっており、その成果は、広く豊田市のビジネス・ライフスタイルの変革を促している。
出典：豊田市



とよたエコフルタウンを拠点に、小型モビリティ「ハーモ」のシェアリングサービスを実施している。
出典：豊田市

Data

面積	91,832ha 豊田市は、都市部から山間部を有する広大な市域を有しており、様々なシーンでの実証実験が可能である。
実施主体	豊田市、トヨタ自動車、中部電力など民間企業
主な導入施設	スマートハウス、EVカーシェアリング、水素ステーション、とよたエコフルタウン(低炭素社会モデル地区)



To the Next Phase

ICT技術の進歩は、エネルギー活用、交通安全、MaaSなどの分野で、従来よりもさらに高度化できる可能性を生んでいる。豊田市では、AI・IoT・ビッグデータの活用を視野にいれた新たな取り組みを加速させている。